

回顧と展望 — 53年度を終えて

## 混戦抜けきれず!! 惜敗つづく

### Bリーグ 5位に終わる

昨年の神戸大ラグビー部は、残念ながら3勝4敗で、Bリーグ5位に終り、私たちコーチングスタッフは、指導不足を大いに反省している次第です。

シーズン前に、「今年のBリーグは、近大が若干抜き出ているが、あとはドングリの背比べ」と申し上げましたが、結果はまさに予想通りで、敗れた4試合はいずれも大接戦の末、わずかなツキの差で勝負が決したという内容であり、今、思い出しても「残念」の一語に尽きます。

連戦連敗に終わった一昨年に比し、昨年は、明らかに全体のレベルは相当アップしており、今年は大いに期待が持てます。

また、5位に終わったものの、新チームスタート直後に中部君の事故が発生し、一時練習休止という事態に追い込まれたことなども考えあわせれば、私なりに、一応、「昨年の現役は良くやった」という評価もしております。

### スクラム・フランカーの強化が課題

さて、昨年、下位に甘んじた主因は、

- (1) プレイ面では、
  - ① スクラムが弱かったこと。
  - ② フランカーの展開が無かったこと。
- (2) 精神面の甘さが改まらなかったこと。

であろうと思います。

まず、スクラムについては、中部君の事故による春の練習不足、左プロップが固定しなかったこと。ロックの伸び悩みなどのため、前5人では、一昨年のメンバーから、わずか1人しか抜けなかったにもかかわらず、弱体スクラムに終わってしまいました。

フランカーについては、やっと夏合宿で、展開力不足に気づくという私たちコーチングスタッフの不手際に加え、以後の指導不足もあり、オープンへの展開がほとんど出来ないフランカー陣で1シーズンを過す羽目に陥ってしまいました。今年は、コーチに、フランカー経験者を加えましたがコーチ以外のフランカー経験者の方々も、ぜひお越し頂き、御指導をお願い致します。

### 54年度が正念場

さて、今年は、昨年のメンバーから、4人が抜けます。しかし、今年のボックスは、要であるHB団、両CTBが残り、ボックスに決定力のあるチームが作れると思いますので、なんとしてもFWを強化し、Aリーグ入りを果たしたいと思います。今年は、この3年間では、最強のチームであり、私としては、今年、Aリーグに上れないようなら、当分、チャンスは無いと思っております。

### OB・現役のより一層の交流を

また、現役の精神面の甘さ（向上心の不足、勝利意欲の不足）の矯正については、再三、申し上げておりますように、数多くのOBの方々から御教示頂くのが、一番だと思います。最近、「ラグビーが変ってしまい、グラウンドに行きにくい」という声を、凌霜のみならず、あちこちで耳に致しますが、同大の岡総監督によれば、「従来やってきたことを理論的に集大成しただけで、ラグビー自体は何ら変っていない」ということでありますし、とりわけ、今の現役に欠けているファイト、鋭いタックルなどは、不変のものでありますので古いOBの方々、最近、グラウンドから遠ざかっておられる中堅のOBの方々も、遠慮なく、グラウンドにお越し頂き、御指導をお願い致します。

現役監督 室賀 隆 (昭43)

### 昭和53年度現役公式戦々績

|        |        |                       |    |       |
|--------|--------|-----------------------|----|-------|
| 9月16日  | 神戸大 8  | { 0 — 22<br>8 — 18 }  | 40 | 大阪教育大 |
| 9月24日  | 神戸大 24 | { 9 — 6<br>15 — 7 }   | 13 | 甲南大   |
| 10月22日 | 神戸大 23 | { 7 — 22<br>16 — 18 } | 40 | 近畿大   |
| 10月29日 | 神戸大 7  | { 0 — 0<br>7 — 18 }   | 18 | 大阪大   |
| 11月14日 | 神戸大 4  | { 0 — 9<br>4 — 12 }   | 21 | 関西大   |
| 11月25日 | 神戸大 39 | { 15 — 4<br>24 — 14 } | 18 | 追手門大  |
| 12月3日  | 神戸大 63 | { 25 — 4<br>38 — 6 }  | 10 | 桃山大   |
| 11月12日 | 神戸大 4  | — 27                  |    | 大阪市大  |
| 12月10日 | 神戸大 7  | — 16                  |    | 橋大    |

## 昨シーズンを振りかえって後輩諸君へ

小 松 規 秀 (工4)

すでに、新主将も決まり、新チームがスタートしようとしているわけですが、少しでも今シーズンへの参考になればと思い、昨シーズンの反省、気づいた点を述べてみます。

まず第一は、ケガが多すぎるという点、特に足のねんざ、肉離れと各自の自覚と努力により防ぐことのできるケガが多すぎる。

第二に、一人一人にうまくなろう、強くなろうという意欲がなさすぎる。ただ、決められた練習を消化しているだけで、オレがやってやろうというファイトがみられない。ラグビーは、原則として交替が認められない。すなわち、15人の中に入らなければ試合に出られないわけである。各自がもっと競争心をむき出しにして、ポジション争いをしなければチームは強くならない。また、もっとラグビーを研究しなければならない。

第三は、基礎体力が不足している。これは各自の努力により十分補えるし、またケガの防止、スタミナの養成へとつながっていく。

以上、勝手なことを述べましたが、少しでも参考になれば幸いです。

今シーズンは、4年生が多く、また部員も40名近くになると思います。ぜひ、全部員一丸となり我々が達成できなかった一部復帰を果たしてください。

## 凌 霜 戦 記 (東京)

原 口 重 孝 (昭43)

東京凌霜ラグークラブの1978年度の戦績を報告致します。試合数は春1試合、秋4試合。

|        |       |  |    |         |
|--------|-------|--|----|---------|
| 5月3日   | 凌霜 20 | $\left\{ \begin{array}{l} 14-0 \\ 6-8 \end{array} \right\}$  | 8  | 興亜・富国連合 |
| 8月27日  | 凌霜 10 | $\left\{ \begin{array}{l} 0-16 \\ 0-18 \end{array} \right\}$ | 34 | 三 和 銀 行 |
| 9月17日  | 凌霜 19 | $\left\{ \begin{array}{l} 6-10 \\ 13-0 \end{array} \right\}$ | 10 | 東 京 銀 行 |
| 11月12日 | 凌霜 22 | $\left\{ \begin{array}{l} 8-4 \\ 14-10 \end{array} \right\}$ | 14 | 千 葉 銀 行 |
| 12月17日 | 凌霜 15 | $\left\{ \begin{array}{l} 6-4 \\ 9-0 \end{array} \right\}$   | 4  | 富 国 生 命 |

上記の様に4勝1敗です。三和銀行には前年も負けており雪辱を期したのですが、相手は合宿帰りで元気いっぱい。こちらは暑さとスタミナ不足で全員日射病気味で後半に入るともう動けず完敗でした。今シーズンは是非とも一矢報いたい相手です。

東銀は凌霜に対し激しいライバル意識を持っており(前年凌霜が2点差で勝ったが相手は負けていないと思ってるよう)接戦になりましたが駐在帰りの福原君の活躍でまたまた勝ち。しかしその福原君も昔のようにプレーできると思い突進していくのですが悲しいかな肉体の衰えはどうしようもなく昔は抜けたコースも抜けず、つかまり歳を感じさせます。もっともこれは全員に言える事ですが。千葉銀戦ではメンバーが不足3人程助っ人を頼み、ようやく試合が組めました。何時も大勝している富国生命も若手が増え今後は相当苦戦しそうです。

東京の場合は試合可能メンバーが20人不足で何時もメンバー集めには泣かされます。若手は各会社の試合があつたりして来れない時が多く、仲々ベストメンバーが組めません。凌霜の試合出場メンバーの平均年齢が32~3才と高齢化しており新しい若手プレーヤーの東京赴任を切望しています。それでもなんだかんだと言いながら、怖かったOBも、今では歳をとり和気藹々と試合を楽しみ?ぜいぜいと息しながら試合後のビールを楽しみに走るのも又良いものです。

怪我也捻挫2、脳しんとう1と大した事もなく終わったのが何よりです。

色々無理言って出場していただいた40才以上のプレーヤーの方々もまだまだ貴重な戦力ですのでオフの間も自主トレに励まれ今シーズンも一つまた年を取りますが宣しく御活躍を、紙面を借りましてお願い申し上げます。

最後に現役諸君の今年の御活躍を祈っております。

## 凌 霜 戦 記 (関西)

小 玉 康 雄 (昭39)

去る11月12日、六甲台に於て三商大戦の対大市大戦の後で、昨年同様同OBと戦った。

市大OB 18 - 12 凌霜

昨年の人員不足に比し、本年は15人揃ったにも拘らず苦杯をなめたことは、一に相手が昨年の敗戦に懲り、選手を選んで勝利を目指してきたことにある。しかし、これは敗者の弁解に過ぎず、今年には勝者としてミーティングに臨みたいもので、セレクションマッチが必要な程のOB諸氏のご参集をお願いしたい。

なお、試合後に神大食堂に於て和気藹々のムードでミーティングを催すことが出来たことを付記します。

## 凌霜ラガー懇親会

山入端 邦 男(昭53)

1 昨年あたりから、OB会の活動が活発に行なわれるようになってきましたが、去る11月14日、凌霜クラブに於て、凌霜ラガー懇親会が催されました。出席者は約30名、全会員から見ればごく少数であり、OB総会その他の会合でもこれ位の人数は集まるかもしれません。しかしながら、昭和4年御卒業の方から昭和53年卒業の者までという半世紀にわたるバラエティに富んだ各年代の参加者があったということは非常に有意義なものでした。したがってお顔さえ拝見したことがないという方も多く、この日を契機にゴルフコンペを行なおうなどと話に花が咲き、親睦も深まったようです。

国領OB会長の挨拶に続き、各人の武勇伝を語っていただきましたが、昭和4年度御卒業の尾上大先輩は、御子息も神大ラガーとして活躍されたとのこと、私は神戸大学ラグビー部の伝統というものを改めて感じさせられました。

皆様それぞれ、当時を偲び自慢話もあれば失敗談もある。苦しく辛かった記憶もあれば、楽しい思い出もある。各年代の時代背景を交えたお話はラグビーの昭和史を聞いているかのようなようでした。

このように終始楽しい雰囲気では盛上ったのですが、残念なことに、若手のOBの出席率が悪かったのであります。仕事の都合など忙しいこととは思いますが、このような会には出来るだけ参加していただき、老いも若きもラグビーのもとで年代を超えた交流をはかり、一つになり、神戸大学ラグビー部の発展を祈ろうではありませんか。

## 凌霜ラガー懇親ゴルフ会のご案内

今度、会員相互の親睦をはかるため、有志によるゴルフコンペを下記の通り開催させていただきますので、奮って御参加下さい。

なお、満員になり次第締切らせて頂きますからお早目に申込んで下さる様お願いします。

(遅くとも3月10日までにお申し込み下さい)

## 記

日 時 3月18日(日) 7時37分より4組  
場 所 ダンロップゴルフコース  
神戸市北区八多町深谷字築ヶ谷1025-1 078-982-1221(代)  
会 費 1万5千円  
申込先 05956-3-6327 (大林組名張工事  
事務所内) 松下 晴彦(昭.36)

コースのあらまし：ダンロップでおなじみの住友ゴムと大林組とが提携し、昨年9月にオープンしたパブリックコースです。芝付きは今一歩ですが、フラットな地形を生かし、巾広くしかも樹林や池を沢山残した風格あるコースで、近い将来、ダンロップのホームコースとして、国際トーナメントも開かれる予定です。

## 53年度凌霜ラガー会費納入状況

- |              |          |
|--------------|----------|
| 1. 53年度会費納入者 | 172名     |
| 2. 納入会費総額    | 541,000円 |
- 以上12月末日現在  
竹村 秀博(昭33)

## 昭和53年度 夏合宿 OB参加者

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 西 松 理 夫(昭31) | 松 下 忠 男(昭39) |
| 室 賀 隆(昭43)   | 寺 西 直 康(昭43) |
| 和 田 博 行(昭45) | 阪 下 喜 治(昭48) |
| 田 中 俊 明(昭49) | 吉 沢 昌 恭(昭50) |
| 西 川 隆 一(昭51) | 星 川 翼(昭52)   |
| 糸 井 義 隆(昭52) | 中 野 功 三(昭53) |
| 明 慶 剛(昭53)   | 田 中 計 久(昭53) |
- 以上14名

## 運営委員会からのお知らせ

昨6月11日(土)の総会に於ける新役員 の 決 定 後、9月4日(月)・10月11日(水)・12月4日(月)の三度運営委員会を開催いたしました。運営委員会には一部理事の方にも参加していただいております。任務分担は次の通りです。

- |               |            |            |
|---------------|------------|------------|
| 総 務           | 井沢 俊之(昭30) | 田畑 芳彦(昭43) |
|               | 野中 克己(昭44) | 清水 睦夫(昭45) |
|               | 阪下 喜治(昭48) | 山入端邦男(昭53) |
| 会 報           | 松本 昭一(昭31) | 吉沢 昌恭(昭50) |
|               | 西川 隆一(昭51) |            |
| 会 計           | 竹村 秀博(昭33) | 国沢 健一(昭40) |
|               | 田中 俊明(昭49) |            |
| クラブチーム<br>運 営 | 小玉 康雄(昭39) | 矢野 智(昭43)  |
| 現役指導          | 室賀 隆(昭43)  | 吉沢 昌恭(昭50) |
|               | 星川 翼(昭52)  |            |

また主な活動は次の通りです。

1. OB会費の徴収
2. OB名簿の作成
3. 大阪懇親会の開催
4. OB会報(Nº 5)の発行
5. 三商大戦交歓コンパの開催

## 中部君のその後の病状について

12月16日に吉沢君(50年卒)と神大付属病院に中部君をお見舞に行き来しました。面会時間が午後3時からとのことで本人には会う事が出来ず、お母さんに休憩所でお目にかかり種々病状をお伺いすると共にお見舞の品を差上げて来しました。

中部君の現状は意識は明瞭になり、右手が略自由に動くようになり、近くりハビリセンターに転院してはとの話も出るようになったとのことですが、数日前に呼吸中樞に欠陥があるのか呼吸困難に陥って急遽咽喉部を切開して呼吸が出来る様にしたため言語障害を来たし、本人は自分の意志が十分に伝わらないのでイライラしていると言う事でした。この様な事は前にも3回程あって今度が4度目だそうで、そう心配して居られる様には見えませんでした。

以前に吉田病院にお見舞に行った時は負傷よりかなり日時が経っていたにも拘らず意識不明の儘であってこの儘では一生植物人間で終るのではないかと懸念されていた事から見ると非常な回復でまだ年令も若いことであり、全治は無理としてもある程度の回復は可能かと思われます。

ここで特記したいのは丹羽先生の御配慮により吉田病院より神大付属病院に転院することが出来て治療の面でも又経費その他の面でも種々好都合に事が運ばれている事は真に喜ばしい事であり丹羽先生の御高配を衷心より感謝するものであります。

国領 武一郎 (昭12)

## 神戸大ラグビー部夏合宿訪問記

訪問者 西松理夫 (昭31)

松下忠男 (昭39)

8月19日(土)猛暑の東京を午後1時頃出発し、車で国道17号線から碓氷峠まで一気に突っ走り、一時休憩のあと有名な避暑地軽井沢へ入った。さすがに空気はさわやかで人出も最盛期を過ぎているためか、大した混雑もなく茶店の様な食堂で夕食をとったとき、あたりはもう暗くなっており、遠くに見える山肌に蓼科高原の灯がきらきらと輝いていた。

そのあと目的地菅平高原を目ざして有料道路をぐんぐん登って行き、神大ラグビー部の合宿している菅平会館に着いたのは夜の9時近くではなかったかと思う。車から降りるとさわやかさを通り越して思わず身震いがする程の冷気があり、菅平へ来たなあと言う実感がわいた。菅平会館内は神大ラグビー部以外にも多くのラグビー部、他の連

中が合宿しており、凌霜からも室賀監督をはじめ寺西君、和田君などが、コーチのため宿泊していた。早速近くの焼肉屋へくり出して明日のスタミナをつける一方、現役の状態や練習要領等について、いつもながらの室賀監督の情熱を聞かせてもらった。現役は既に白馬にて十分に走り込んでおり、この菅平では色々なチームとのマッチを主にするとのことであった。翌日、午前の練習に参加したが、現役諸君は一日の休養があったこととマッチをしていないため体が痛んでいなかったためか全員元気一杯で、プレーヤーの人数も多く、各個人の体格も良いため、中でうろうろしているとぶっ飛ばされそうな雰囲気であった。しかし慣れて来ると技術面で未熟なところが目立つことと、精神的にあまり強くないのではないかと感じられた。特に精神面から来る強いチームにある風格という面についてはほとんど出来ていないと言わざるを得ず、比較対象にはならないが、午後より見た年代である関東の明治大学のメンバー達もつ風格に比べると、我が神大ラグビーはまだまだ伸びる余地があるなあと慨嘆したものである。午後の練習は社会人の一線級であるユニチカ(関西1部)と明治生命(関東1部)との三つ巴のマッチを組み、社会人側の出来上りが未だしという点があったが、我が神大ラグビー部は結構善戦していたことから、今年のチームはなかなか素質豊かな、秋のシーズンが楽しみなチームという印象が強かった。ただ我々としてはたった一日のつき合いであり、現役諸君とじっくり話をする時間もなく、又現役諸君も初めての菅平で精神的に畏縮していたためか、各個人の能力等については、分らずに菅平を去らねばならなかったことは心残りであった。

我々のように卒業後10年以上経ったOBではたとえもう2日や3日居ても現役諸君となじむことは不可能であり、そのためにも今回白馬の方へ多く参加したという、現役諸君と一諸にプレーした若手OB諸君が1人でも多く互にさそい合って合宿に参加してやってほしいと願うし、又我々OB全体としては、現役に対するのと同様に若手OBの労力に対して金銭面での援助が出来るような体制固めが必要ではないかとしみじみ感じながら暑い下界へ降りていった。最後に現役諸君へのお願いになるが、たとえ初対面のOBであっても、OBであることが判れば大声で「こんちはー」と挨拶をする習慣をつけてほしいと思う。特に合宿に行くようなOBは単細胞に出来ているのであるから、その一言が有ると、ああ来てよかったと感じるものであることをつけ加えておく。